



システムレジスタUP-700S

# 地場野菜を販売するJAマインス「府中特産品直売所」では インスタアバーコードを採用したコストパフォーマンスが高いシステムを導入。

## シャープ、ネットワーク対応 システムレジスタ

# 『UP-700S』

JAマインスが府中市の要請を受けて、府中特産品直売所の運営を開始したのは2005年7月。ゆくゆくは府中市ブランドを育成したいという市の狙いから、駅前再開発地区の空き店舗が提供された。そこに開設されたのが、府中市内で農業を営む生産者でJAマインスの組合員から構成される「府中農産物出荷組合」の産品を直売する常設店舗だ。月曜から金曜の毎日午後1時から5時まで営業している。

JAマインスは調布市、狛江市、府中市の東京近郊3市をカバーする都市型農協として、いくつかのマインズショップや園芸センターを運営しているほか、大手デパートやスーパーにインショップも出店しており、それぞれの店舗でPOSレジを使用している。府中特産品直売所の開業に当たっては、出荷形態も含めてどういうシステムを導入するかが検討された。

各生産者は朝採りの野菜をパックして、自分でラベルを貼る。昼過ぎ、およそ90㎡の売場は、JAマインスの職員と組合の当番が運び込んだ商品でいっぱいになる。開店と同時にお客さんがどつと入る。

直売所には生産者ひとりひとりが産品を持ち込む。売れた分は、売上として個人が得る。だが、販売は一般の店舗と同様レジでお金の受け渡しをする。誰の商品が売れていくら入金したのかがわかるように、トマトやキュウリひと袋ずつにコードをつける必要がある。

産品には、どれも生産者が明記されている。安心しかも価格も安めということ、市民に人気である。開店から2時間、出口近くに並ぶ2台のシャープのネットワーク対応システムレジスタ「UP-700S」は休むひまもない。

そこで、生産者名、商品分類、価格をコード化したバーコードを、生産者が直接、商品につけられるようにした。この

「府中農産物出荷組合の組合員は現在67人。平均してその約半数から複数の品目が出荷されます。売上額に応じて出

「生産者が新しい産品を出荷することもめずらしくありません。その場合は、新しいコードを用意し、新規のデータをつくります。つないだパソコンに入力するだけでレジスタにマスター登録もできる



### 生産者の顔が見えると 人気の特産品直売所

東京郊外の府中市。私鉄駅前に「府中特産品直売所」がある。並ぶ商品は、みずみずしい野菜類と生花、植木、ハチミツなどすべて地元の生産者が出荷している産品である。

### 新しい産品も簡単にマスター登録

直売所では、2台のシャープのシステムレジスタUP-700Sがバーコードを読み取る。1日の売上データと現金は本部に収め、月に1回それぞれの生産者に対して精算している。

荷組合の経費やJAマインスの精算業務経費などを差し引いて精算し、月に1回、組合員さんに売上金を戻します」と

ラベルプリンタは、JAマインスの各支店および直売所のバックヤードに設置してあり、随時利用できる。

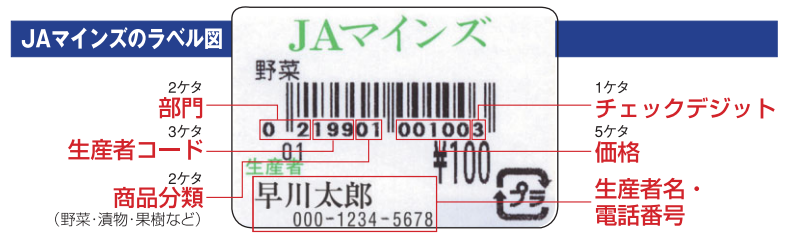
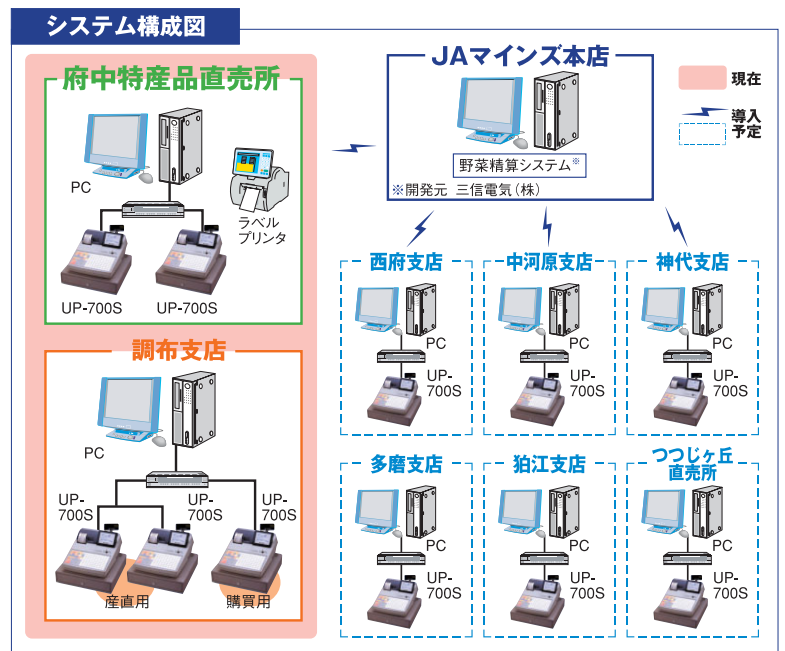
「葉もの野菜のラベルは濡れてバーコードが読み取りにくくなったりすることもあるのですが、手打ちは間違いのものなど、その場合はラベルを出し直すなどして、レジでは必ずバーコード読み取りを励行しています」（新井さん）

「生産者が新しい産品を出荷することもめずらしくありません。その場合は、新しいコードを用意し、新規のデータをつくります。つないだパソコンに入力するだけでレジスタにマスター登録もできる

### 即日追加納品も可能な オンラインネットワークへ

府中市の直売所の成功を得て、JAマインスでは調布市の地元農産物直売所にもシステムレジスタ「UP-700S」を2台導入した。さらに園芸資材や種苗を扱う園芸センターなどへの導入も決ま

「ひとりひとり、1産品ごとに単品管理できるレジシステムで、こんなにコンパクトなものにはありませんでした」とJAマインス経済指導部経済課の高橋玲子さんは言う。



**店舗概要**

店舗名：府中特産品直売所  
所在地：東京都府中市 宮西町1-1  
運営：府中農産物出荷組合およびJAマインス  
連絡先：042-334-6465  
建物：110㎡  
営業時間：月～金の13～17時

高橋玲子氏 新井佑一郎氏

**お問合せ先**  
シャープ株式会社 情報通信事業本部 パーソナル&ホームメディア事業部  
東京都新宿区市谷八幡町8番地  
TEL.03-3260-8430 http://www.sharp.co.jp